



2009年(平成21年) 6月4日 木曜日

発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121



望遠鏡をつり下げ、空に打ち上げられる
大気球(3日早朝)

JAXA実験

望遠鏡システムに手応え

大気球3時間滞空

【天樹】3日早朝、独立行政法人・宇宙航空研究開発機構(JAXA)の大樹航空宇宙実験場で行われた国内初の気球搭載型望遠鏡の打ち上げ実験は、金星の大気観測は不調に終わったものの、望遠鏡システムの基本設計の妥当性が確認された。JAXA側も

同実験場では初めて大気球の長時間滞空実験が成功し、今後の研究に弾みをつけた。同実験は、東北大学大学院の共同研究で、結果は同日夜、JAXAが発表した。打ち上げた望遠鏡は、気球につるされた状態でも体勢

を保持できると、新開発された精密姿勢制御装置を装備。望遠鏡本体は直径30センチの市販品を使った。

実験で大気球は高度32・6キロまで上がり、約3時間、空中に滞在。望遠鏡システムは制御装置技術検証に必要なデータを取得することができた。ただ、一部不具合が生じて金星

大気観測はできず、同惑星の画像撮影は不調だった。不具合については今後、両大で検証する。研究に携わった立教大の田口真教授は「同

システムが技術的には可能という手応えを感じた」とし、JAXA大気球実験室の吉田哲也室長は「3時間気球を滞空させるオペレーションができたことは、今後への弾みとなる」としている。

同実験は成層圏まで望遠鏡を運び、惑星観測する。空気の影響を受けないことで、小型望遠鏡でも地上大型望遠鏡並みの性能が期待できる。将来的には北極点、南極点上空での運用を目指す。

(長田純一)